

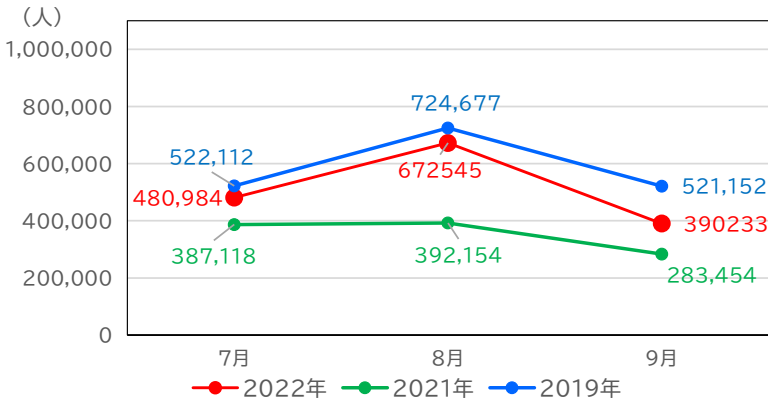
# 大分県観光予報観光動向レポート 7月号

対象都市	大分県	集計対象期間	2022年7月～2022年9月（3か月間）
比較対象都市	福岡県・長崎県・熊本県	比較対象年度	2021年（前年）、2019年（コロナ前）

## 大分県の宿泊動向

### ■宿泊者数の推移

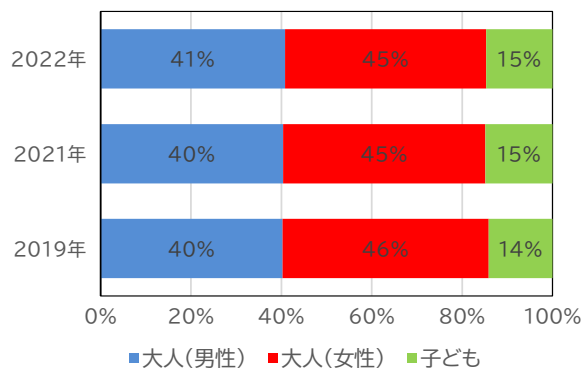
[2022年7月～9月の宿泊者数（大分県 実績・予測）]



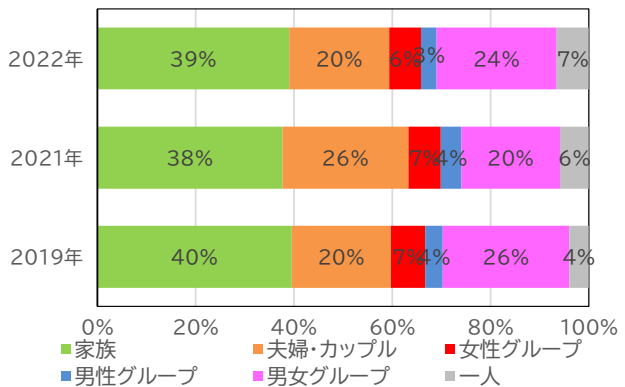
8月宿泊実績：672,545人  
 (7月時点8月予測：521,933人)  
 9月宿泊予測：390,233人  
 (7月時点9月予測：85,642人)  
 前年比(8月) 72% 増  
 2019年比(8月) ※コロナ前 -7% 減

### ■宿泊者属性の動向

[大人・小人の別 (8月)]



[同伴形態の別 (8月)]

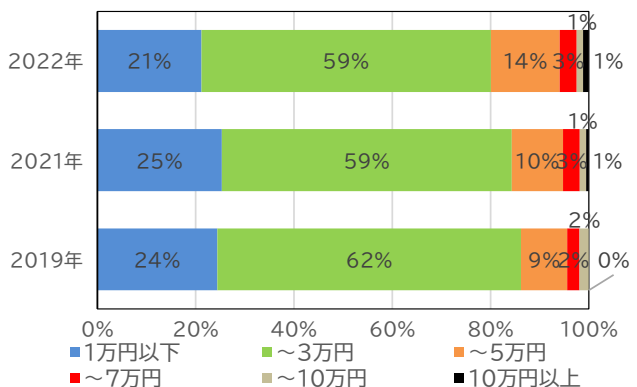


[当期宿泊者の居住地ランキング (8月)]

※海外はデータ数小により非表示

国内	順位	都道府県	宿泊者数	割合	順位	都道府県	宿泊者数	割合
	1位	福岡県	179,862	27%	6位	山口県	30,316	5%
	2位	大分県	74,614	11%	7位	神奈川県	25,596	4%
	3位	東京都	52,073	8%	8位	広島県	23,965	4%
	4位	大阪府	36,142	5%	9位	愛知県	21,658	3%
	5位	熊本県	35,870	5%	10位	千葉県	21,029	3%

[一人あたり宿泊購入額 (8月)]



[市町村別の宿泊者数ランキング (8月)]

市町村名	宿泊者数	市町村名	宿泊者数
1 別府市	335,841	10 国東市	1,033
2 由布市	202,323	11 佐伯市	852
3 大分市	49,398	12 宇佐市	765
4 日出町	32,778	13 豊後高田市	674
5 日田市	18,439	14 津久見市	594
6 竹田市	13,717	15 豊後大野市	341
7 中津市	8,004	16 臼杵市	226
8 九重町	3,939	17 姫島村	-
9 杵築市	3,621	18 玖珠町	-

### 考察

【大分県の宿泊動向】

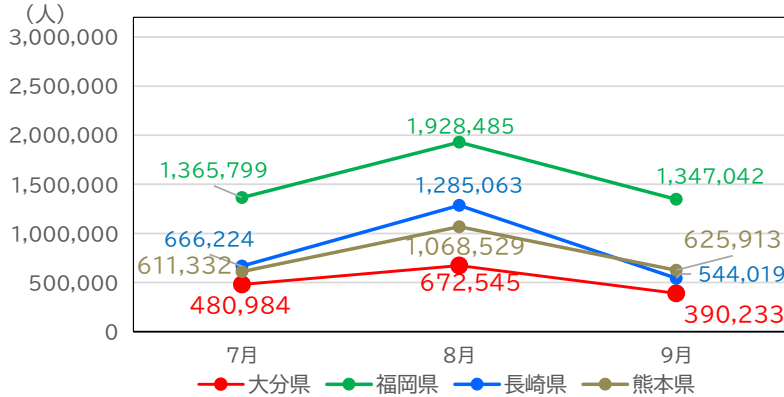
- ・2022年8月の宿泊者数は、3年ぶりに行動制限のない夏休みシーズンであったことや、隣県を含む旅割が継続していたことなどから前年比72%増加したものの、コロナ前の2019年比は-7%減にとどまり、コロナ禍前の水準までは戻っていない。
- ・宿泊者の属性は、コロナ禍前の属性とほぼ変わっていないが、一人旅の割合が若干高くなっている。
- ・大分県宿泊者の居住地は、福岡県在住者が27%を占め、引き続き福岡県・自県の宿泊者が多い傾向にある。

※2022年6月以降の数値は現在の予約状況及び過去の動向を踏まえた推計値です。予約数の増減に応じて随時値は変化します。  
また、2022年の実績値についてはキャンセル値を随時反映しているため、数値が変化することがあります。

### 比較対象都市との比較（7月～9月の宿泊動向）

#### ■宿泊者数の推移の比較

[2022年7月～9月の宿泊動向（隣県比較）]



#### 【各県前年比（8月）】

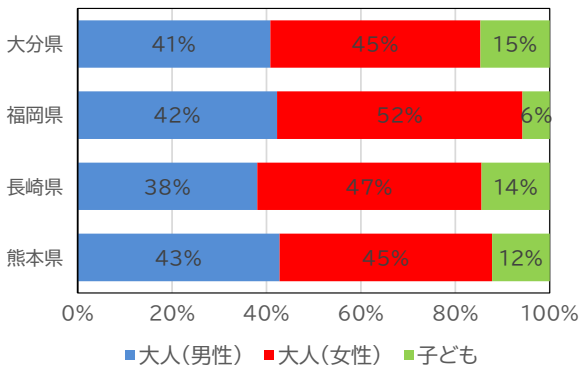
大分県：72% 増  
福岡県：161% 増  
長崎県：247% 増  
熊本県：180% 増

#### 【各県2019年比（8月）】

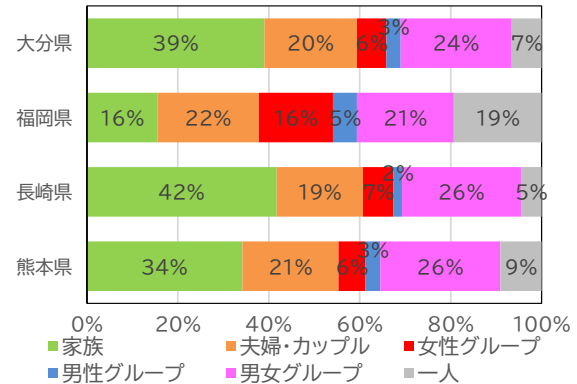
大分県：-7% 減  
福岡県：28% 増  
長崎県：69% 増  
熊本県：24% 増

#### ■宿泊者属性の動向比較

[大人・小人の別（8月計）]



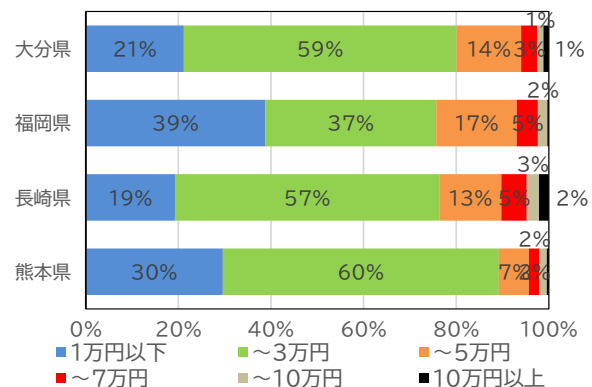
[同伴形態の別（8月計）]



[各県宿泊者の居住地ランキング（8月計）]

大分県			福岡県		
1位	福岡県	179,862 27%	東京都	242,753	13%
2位	大分県	74,614 11%	福岡県	189,059	10%
3位	東京都	52,073 8%	神奈川県	152,969	8%
4位	大阪府	36,142 5%	大阪府	136,849	7%
5位	熊本県	35,870 5%	埼玉県	119,817	6%
長崎県			熊本県		
1位	福岡県	218,190 17%	福岡県	218,762	21%
2位	東京都	186,406 15%	熊本県	142,035	13%
3位	神奈川県	97,110 8%	東京都	110,238	10%
4位	大阪府	91,967 7%	鹿児島県	93,325	9%
5位	埼玉県	76,277 6%	大阪府	56,469	5%

[一人あたり宿泊購入額（8月）]



### 考察

#### 【比較対象都市の動向】

- ・比較対象都市の宿泊者数の動向としては、大分県は2019年比-7%減にとどまったが、福岡県は28%増、長崎県は69%増、熊本県は24%増と、コロナ禍前と比べても増加している。特に長崎県は昨年度比247%増と大幅に伸びており、大分県の約2倍の宿泊者数となった。
- ・宿泊者の属性をみると、福岡県は一人での宿泊のほか、女性グループの割合も高い傾向にある。大分県、長崎県は子供、家族連れの割合が比較的高い。
- ・大分県は福岡県からの宿泊者が他県に比べ高い傾向が続いていたが、8月の福岡県民の宿泊者数は長崎県、熊本県の方が多結果となった。その他、関東や関西などの都市部からの宿泊者は大分県では引き続き他県に比べ少ない傾向にある。